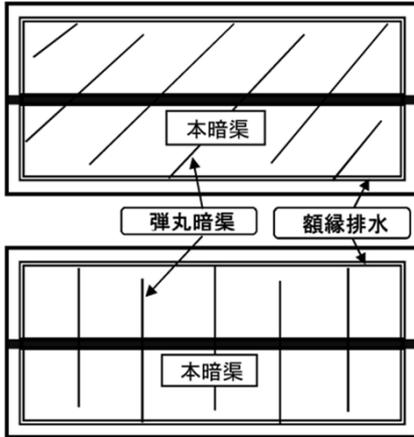


麦の生育と管理

令和4年12月号
大分県北部振興局集落営農・水田畑地化班

◎排水対策 ～雨が止んだ時がチャンス～

額縁の四隅や排水口等を繋げ、ほ場の外に水を出しましょう。
この作業は降雨後がオススメです。滞水している場所が一目で確認できます。
畦間と額縁排水溝をつなげることで、水が畦間を流れ、十分に排水できるようになります。
額縁排水溝と畦間、排水口を連結し、確実にほ場外へ排出しましょう。



額縁の四隅や排水溝をつなぐ。



弾丸暗渠を額縁とつなぐ。

◎麦踏みと土入れ

麦踏みと土入れは、麦作期間中の重要な作業です。
麦の生育状況や土の状態を見ながら、丁寧に・こまめに実施しましょう。
・麦踏みは、早播きしたときや、暖冬年で生育量が過剰の時は1～2回多く行ってください。
・土入れも、生育過剰の際は回数を増やしてください。

	作業時期	作業回数	注意事項
麦踏み	麦の3葉期 ～ 莖立期	3～4回	作業は土が乾き、ローラーに土が付かない時に実施。
土入れ	麦の4葉期 ～ 莖立期	2回	作業は土が乾いたときに実施。 1回目は土を薄くかける。

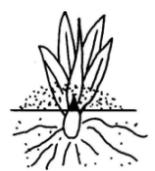
麦踏みと土入れの効果

麦踏み



- ・分げつ促進
- ・莖立ちを遅らせる
- ・穂揃い良化

土入れ



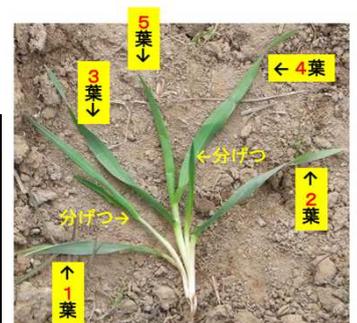
- ・倒伏防止
- ・雑草抑制
- ・排水改善

◎肥培管理 ～分げつ肥で単収増加へ～

分げつ肥を散布することによって、穂数が増加し収量が上がります。
穂肥とは目的が異なるので、必ず分けて施肥しましょう。

【分げつ肥（窒素成分）の施肥基準】

	適期	施肥量	
		窒素量	化成肥料
小麦 ・大麦	麦の4葉期頃	2kg/10a	16-0-16 15kg/10a
		※晩播の場合は 3kg/10aに増量	20kg/10a



◎雑草対策 ～生育期の除草について～

生育期除草剤は、雑草が大きくなる前に、タイミングを逃さず散布しましょう。雑草が繁茂すると収量や品種の低下を招きます。

下記の表に記載されている葉齢は**最大葉齢**です。

【生育期除草剤】

	ハーモニー75DF水和剤	MCPソーダ塩	バサグラン液剤
スズメノテッポウ	5葉期まで ※注1	—	—
カズノコグサ	1～3葉期まで	—	—
ヤエムグラ	4節期まで	1～4節期まで	6節期まで
カラスノエンドウ	—	1～4葉期まで	6葉期まで
タデ類	生育初期のみ効果あり	—※注2	生育初期のみ効果あり
使用時期	小麦 は種後～穂ばらみ期 (但し収穫45日前まで) 大麦 は種後～節間伸長前	幼穂形成期 但し収穫45日前まで	小麦収穫45日前まで 大麦・裸麦収穫90日前まで
使用量	5～10g/10a	200～300g/10a	100～200ml/10a
希釈水量	100ℓ/10a	70～100L/10a	70～100ℓ/10a
使用回数	1回	1回	1回

※注1 ハーモニー抵抗性スズメノテッポウには効果なし。注2 バサグランとの混用散布
※薬剤ごとに使用時期、使用回数が異なります。ラベル等をよく読み使用しましょう。



スズメノテッポウ（5葉期頃） ヤエムグラ（4節期頃）

散布直後の雨と気温の上昇に注意！

- ・ 散布直後に雨が降ると除草剤が効きにくくなります。
- ・ 気温が上昇する(気温20℃以上)と、薬害のリスクが高まります。
- ・ 天気予報や土壌水分を確認して散布しましょう。

【農林水産研究指導センター研究NOW】 vol.107

麦の上から堆肥散布で農家も儲かり、田んぼも元気！

<二毛作体系に対応した堆肥散布可能期間の拡大>

従来の堆肥散布は圃場の無作付期間に行うのが一般的でしたが、1～2月に生育初期の麦の上から牛糞堆肥を散布する新しい手法を開発しました。(表1)

<麦の上から堆肥を散布しても大丈夫？>

麦の生育期(3葉期以降)の2t/10aの完熟牛糞堆肥の散布は、麦への害も少なく堆肥に含まれる窒素成分等により麦の増収につながります。また後作の水稲では堆肥散布初年目、大豆では2年連用することで増収効果が現れました。

詳しい内容は
QRコードから
検索ください→



表1 二毛作の水田における品目別作付期間と堆肥散布可能期間

品目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
水稲				移植			収穫					
大豆					播種			収穫				
麦						収穫				播種		
堆肥散布 可能期間		従来	←→				←→	←→	←→	←→	←→	←→
		開発技術					新たな散布期間→					

周囲に配慮のある農作業をお願いします

トラクター等で移動する際、道路に土を落とさないようにしましょう。

また、作業する際は道路に自動車を長時間停車しないなど、周囲への配慮を忘れずに作業をしましょう。